



報道発表資料の配付日時 7月8日(金) 10時00分

発表項目 (行事名)	「もうひとつのクライマックス」事業への寄附に係る紺綬褒章の伝達について (伝達先：苫小牧信用金庫)		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>「もうひとつのクライマックス」事業へご寄附をいただいた苫小牧信用金庫に対する紺綬褒章の受章が決定したことから、次のとおり褒状を伝達しますのでお知らせします。</p> <p>【紺綬褒章伝達式】</p> <p>◆日時 令和4年(2022年)7月13日(水) 11:30～</p> <p>◆場所 苫小牧信用金庫本店 3階 会議室 苫小牧市表町3丁目1-6</p> <p>◆道対応者 教育庁学校教育監 唐川 智幸 胆振教育局長 針ヶ谷 一義</p> <p>◆贈呈先 苫小牧信用金庫 理事長 小林 一夫(こばやし かずお)</p>		
参考	<p>○ 紺綬褒章について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益のために私財を寄附した個人又は団体を顕彰する国の制度で、個人5百万円以上、法人・団体1千万円以上の寄附金額が対象 <p>○ 「もうひとつのクライマックス」事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度、新型コロナウイルスの影響によって、部活動の全国大会が中止となり集大成の場を失った生徒たちのため、その代替大会の実施などをおし、卒業生アスリートたちが輝ける「もうひとつの晴れ舞台」を創出した取組 ・道教委では、当事業実現のため寄附を募り、企業・団体や個人の皆様から合計1,860万3,476円のご支援をいただきました。 ・苫小牧信用金庫は、当事業に対し、1,000万円を寄附(令和3年3月25日)されたため、このたび、紺綬褒章を受章されました。 		
報道(取材)に当たってのお願い	伝達会場の苫小牧信用金庫本店3階会議室に、直接お越しください。		
他のクラブとの関係	同時配付 同時レク	教育記者クラブ、道政記者クラブに同時配付しています	
担当 (連絡先)	教育庁学校教育局健康・体育課(担当者：高橋課長補佐、戸ノ崎主査) TEL ダイヤルイン 011-204-5752 (内線35-654)		

(令和2年度実施) 卒業するアスリートたちに贈る 「もうひとつのクライマックス」プロジェクトについて

北海道教育庁学校教育局健康・体育課

1 概要

令和2年度、新型コロナウイルスの影響によって、部活動の集大成の場を失った生徒たち、そして、その躍動する姿に勇気と感動をもらってきた家族やサポーターたちのため、北海道教育委員会と北海道が、感染拡大の防止対策を徹底しつつ、国、道民、企業等の皆様とワンチームとなって、卒業生アスリートたちが輝ける「もうひとつの晴れ舞台」を創出する取組を実施

・令和2年度運動部活動の全国大会中止の動き

- 3.11 選抜高校野球大会の中止が決定
- 4.26 夏の高校総体（インターハイ：群馬8/10～24）の中止決定
- 5.12 全国高校総合文化祭（高知県7/31～8/6）のWeb開催が決定
- 5.20 全国高校野球選手権大会の中止が決定

2 実施事業

(1) 代替大会（競技別全道大会）の開催

野球、ソフトボール、ボート、バスケットボール、水泳、ホッケー、ウエイトリフティング、テニス、サッカー、カヌー、体操（トランポリン）、空手道、バレーボール、登山（クライミング）で実施

(2) 応援アンバサダーの代替大会・学校訪問

応援アンバサダーの田中賢介氏（元プロ野球選手）が、代替大会（2大会）及び学校（1校）への訪問を行い、新型コロナウイルス感染拡大の影響で辛い選手たちとの交流を通じて、夢を持って挑戦を実現する想いを伝えました。

(3) クライマックスMVPの表彰

代替大会を開催することができなかった競技のうち、当初開催が予定されていたインターハイにおいて、全道大会優勝又は全国大会における上位入賞など、顕著な活躍が期待された選手3名又はチーム4団体を表彰

(4) 1校1クライマックスの実施

「センパイ、感動をありがとう！」をテーマとして、生徒自身が企画する「1校1クライマックス」と名付けた取組。19校で実施

(5) クライマックス・キャラバンの実施

3年生の生徒たちなどを対象に、道内4会場で、北海道にゆかりのある著名アスリートやアーティストなどをゲストに招き、トークショーなどを実施

〔ゲスト：女流棋士 渡部愛、フリーアナウンサー 国井美佐、陸上選手 久保倉里美、スピードスケート 鈴木靖、アナウンサー 高田まゆみ、札幌交響楽団 山田圭祐、スピードスケート 岡崎朋美〕

(6) Thanks Messages（サンクスメッセージ）

道内の高校生から、先生方、家族や友人、そして先輩、後輩など、今まで自分たちを支えてくれた人たちに宛てた、感謝の気持ちを込めたメッセージを募り、北海道教育委員会特設ページにてメッセージを掲載。応募総数は390通

(7) クライマックス・ギャラリーの実施

「道内高校生等卒業学年の活動の写真の展示、映像の放映を行うなど、道民の皆様に生徒の活動の軌跡を広く紹介し、次のステージへと向かう高校生たちを応援する取組を全道4カ所のショッピングモール等で実施

(8) クライマックス・アルバムの作成

新型コロナウイルス感染症により各種部活動大会が中止になったことに伴い、寄附金を活用し卒業するこれまでの活動の記録をまとめた記念誌『2020 青春の軌跡 クライマックス・アルバム』を作成し全ての高校3年生に配付

※ 企業や道民の皆様から総額18,603,476円の御寄付を頂戴し上記事業を実施しましたうち、苫小牧信用金庫様からは1,000万円の御寄付を頂戴しクライマックス・アルバムの作成などに活用させていただきました